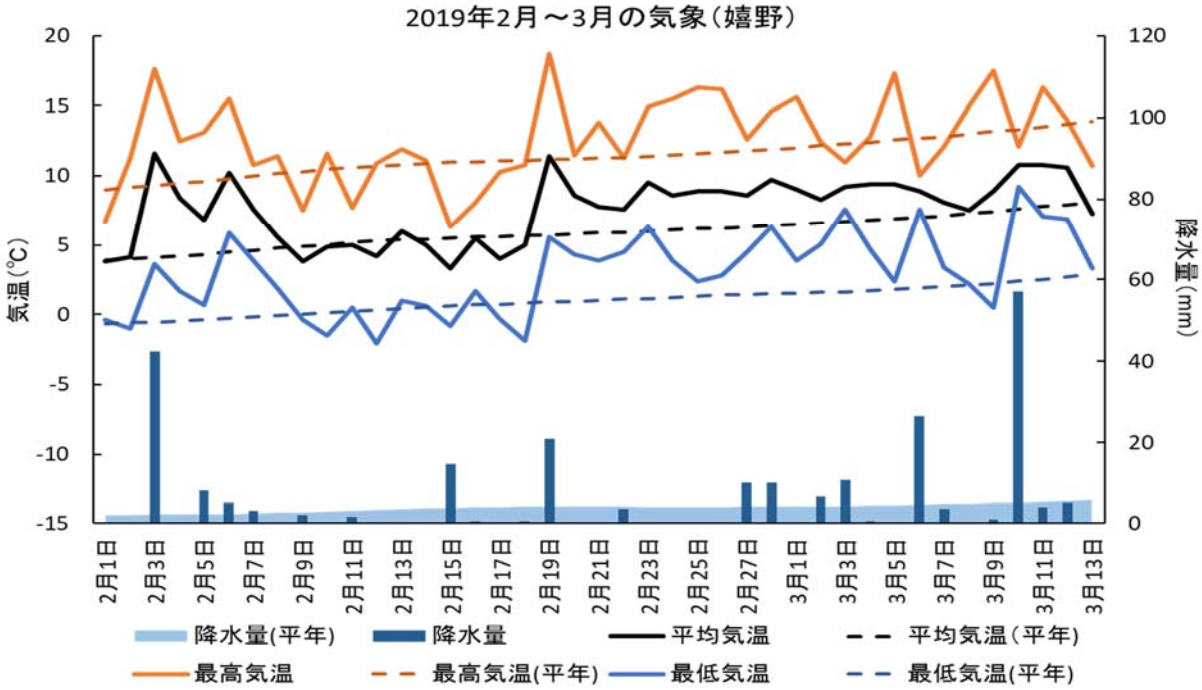
平成 31 年お茶づくり技術情報（No. 2）

2019 年（平成 31 年）3 月 15 日
佐 賀 県 茶 業 技 術 協 会
佐 賀 県 茶 業 試 験 場

1. これまでの気象と生育



1）2 月～3 月の気温は、2 月中旬は平年並みであったが、それ以外の時期は平年より高く推移した。また、3 月の降水量は平年より多い。

2）本年の越冬芽の生育は進んでいる傾向であり、樹勢が良く温暖な園はすでに萌芽している。

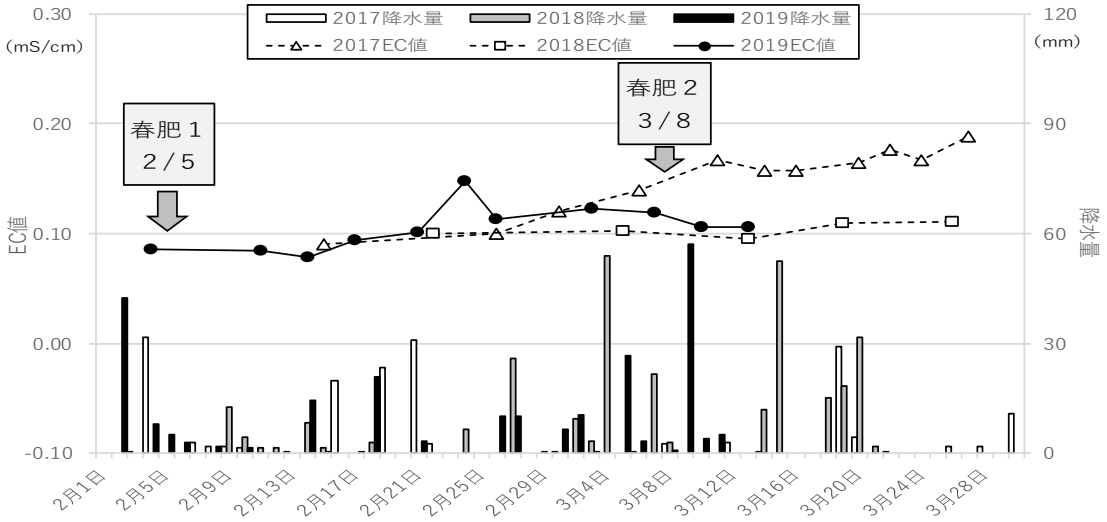
写真　さえみどりの越冬芽
（3/14 撮影、昨年中切り更新園）

写真　やぶきたの越冬芽
（3/14 撮影、昨年中切り更新園）

2. 今後の管理

1）施肥管理

試験場作況調査園の土壌 EC 値と降水量の推移（2017-2019 年）



（１）試験場内の土壌 EC は 0.106 と前年並みである（佐賀県土壌診断基準による３月～4 月の目標値は 0.2～0.4）。

（２）今後の気温は高くなると予報されており、今後の芽や根の動きも平年より早まると考えられるため、春肥２・芽出し肥の施用が遅れないよう確実に行う。

（３）芽出肥の施用は一番茶摘採の３０～４０日前を基本とし、施肥後は土壌と混和する。

２）防霜対策

（１）防霜ファンの運転開始は、一般的には萌芽期前 15 日頃から行い、摘採までは運転を継続する。

（２）防霜ファンの設定温度は茶株面で３℃（茶株面より樹体は２～３℃低い）を基本とし、過度に設定値を上げない（ケースによっては、晩霜害の発生助長やランニングコスト高になる）。

※茶園の傾斜等で温度差がある場合は、温度の低い場所を基準とする。

３）被覆管理

（１）遮光率 70%程度で、穴・汚れ・異臭のないものを使用する。

（２）開始時期は 2.5～3.0 葉を目安にし、期間は 10 日間程度とする。

※極端な若芽への被覆は減収しやすいため避ける。

（３）被覆管理後は、風による煽りや擦れによる葉傷みが発生しないように、資材の固定を確実に行う。

（４）資材の除去は、摘採当日の早朝が望ましく、なるべく日にあたる時間を少なくし、色戻りを避ける。除去時は上に持ち上げるように外し、葉を傷めない。

４）定植

（１）地温が 15℃以上になり、根の生育が活発になる時期（一般に 3 月下旬～4 月上旬）に行う。寒冷地では寒害の心配がなくなる 4 月まで遅らせる方が良い。

（２）植穴は苗の根の深さまで掘り、細根を傷つけないように注意して丁寧に植え付け、根が深く入るよう誘導する。深植えになりすぎないよう注意する。

５）病害虫

病害虫防除については、『平成 31 年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。